類船集六下

伊地知文庫
文庫20
337
7

文庫20
337
7

福田文庫
鶯亭金升旧蔵書

雪

一名 白川の花 紙花

雪の山 雲 月の弦 山室 鶴
冬籠 冬の雨 月
木こり 冬の月 焼月
春野 外の花 窓の外 ろうそく
蝋燭 みすり硝 たぐいさ 雪間 餅
酒 豆腐 寺の柿の実 雲 綿 温泉
酢 布 赤ちゃける 柿の木 繼子
菜つび 琴引 柳の実 竹
柳 ゆき 中心
堂中美人雪車妍と東坡よりの知識如夏
山雪ともいふ。河の月 ふりつもるもんみよ
しらくもりひとつもつもるもんみよ

殷とよぶくわり。周武王殷紂を誅せんとせし
又冬の天氣あつき又あめふり。土地の濃土
依らり阿波へ出華の本すて大雪ふかく土道
のみ多く通わくりの手を切く焼火でもわ。
しまのけのうつ時よりさむかうきてものこと
のてらしうん。六月包雪灑石砫と廬山のまる
さるをとつり天地未生之時壁猶海上浮
雪無所根係とへ神代まくしうりろくく水
りうれ和雪のいまうしくまうろあのむしの菊。
立於庭上頭為霧坐在炉辺手不亀と
雪の詩よりて香炉峯雪撥簾看とと

白雨（ユウダチ）

夜なき袖　涼風（スヾ）　旅の中宿
夜山の雲　蚤　夜泉の露
十市（トヲチ）の里　天の香（カグ）久山　とまり鵜
舎（ヤド）ひと立　日の月　鳴神
辻占　八将門　夜の市　多白山
螢　女良郎　洲崎（スサキ）の鷺
鳴神のまもそろうわきとつくさんと山をあく

高夕立のそらぷくのちいそれゆく気よわり
それなくすゑのふくうう夕立の雲う。紅のうと
夕そら隣のわうか　れなうさうう舟そし内心
あきは美式部う向ふうの舟すくの舞ひ古を
とうめり為わうさう　村を過く白
雨のそら

夕（ユフヘ）

続　香の移ぐる　待月　人待ル
人を待　松風さびし　東雲を
雲霧　蚊遣（カヤリ）火　酒の舟　納涼
里のさく火　旅の宿う
ひさごの花ハ吉ちくうきう○又附志わうそかの
さうかとくれ。秋暮よまだらよハあわらのこご
ころハ夕ぐれとし。和ゆ鳥すそうそさを見それ
がさりのと秋の夕ぐところうそそとかねおりさ
のあとと夕の為ともとわ。はタイかわる鳥雲
ことかしのとわろ舟のうひの寒う。ほし今乃
夕まくしさとそうあり

夏

衣ひ稼　拙の稀　多紀人
猿ね　待まつの秋　無の色

まれにあはせ　胡蝶　桐の花
夕かほ　しらき人　かほよき　康白
汐戸　聖人　周公　浮世　色好
連歌　病人　懐姙　郭郎の杖
俳諧　幽霊
心智上人は青葉に小蛇を吐とみて怖れし
夕かほの花にはいらん俳にねさとへの夢を
くわうあつ夕顔の花なれば門にそて立し
ちらてあるをいつくゆか夕入まくとめのと
えうか子曰甚矣吾衰也吾不復夢見周
公と樹揺幽鳥夢と楊國忠が家と乃
夕まくら夕顔にまかはしと國忠信の
かんじらゆへて恨ひしとく

夕顔（ユウガホ）

壊り垣　夕顔（ニ）　都の下京
小家なるび　車をとむ　源氏
わらくや　夕顔わらり　謡
白露のあさけをさけてよのゆふかくえ
えし花の夕顔と横の古の夕顔を
さして出ろとこのわざぞかれは壊がきのまをと
ゑよめりくまと　れくさく夕顔のやどの
の行くさみちの夕顔わらも詠し
らか東新巳ヲ給匏葉乾蕭疎幸結白
花了ル寧辞青蔓除と杜詩に夕貌のるそ

ゆふがほ

謡　瓜木　わらの庵
驚（ガクナ）　五月の饂　くみ餅
古郷の垣井　一名　親子草
わらの中のかるの夕がほのうきめ
らもて夜のかりうにこしとしれのかすれ
とゆうもかのかけてあけは夕顔のきかた
伊弉諾伊弉冊杜夢の種苑とわらくれ渓
源氏に謡ふ古ひとまし夕がほのかげ
ほらかへてし謡せり

百合草（ユリ）

螢　庭の露　那須の家
葛の家　塒　まくへ合
錦波山　八郎　地震　謡の中し
声の　源氏の家か　く　まくら　染萱

さゆりそのうくる山の三日の月かゝりかなか
けりく彩そさひしさ。竹の光をまたゆうゆりの
もかゆらもわりんとなひそあてさしと和文
のさみふゆんさゆりもよ梭さしちも凡室
とあそうこ

柚（ユ）

さうつき　膾（ナマス）　蛸（タコ）　味噌　菜盛（ヤクバシ）
擂粉木（スリコギ）　篠木（ミモク）　ゆで　かしき

蜀都賦（シヨクトノフ）曰、戸有橘柚之園。氷尾の柚こ
そやさそうろしきとよ汁の料理にいれて
てうかをぬあたり。柚の本よ猶の木の之をり
とりふそらし

曲木（マガリキ）

山のおぎゆひ　床柱　作ら庭
轆轤（カラクキ）　去々の家

大石などのをる車いかたがゆゝてりの也。
下よ又工いやうふつさおよおうれ。石臼の引
木衍（チヤウ）の柄しそいつ木とられどもけり人いお松
楓ていめりの縄と付いるをとえて曲折を好
めりされども資瓶をいゆる本と見る捨ら
まことそ。ちとさ木をよぼうまうる枝もあり
りのどとくわり

弓（ユミ）

隨身（ズイジン）　弦子（ツルコ）　綿ら月
株わけ　棄字（カゲ）　初年余
厄神木（ヤクジン）　弓矢　弦す　こうのわか
狩場　誕生　お楼　競涂　お朝
射殺　ゆら美天下　養由　石弩（キギヨ）
奈須与一（ナスノ）　八幡　桟屋（ヤ）

日本武尊（ヤマトタケル）弓の弭かゝく掃ゆひしら八洛水た
ちまち涌出てり今の江州の醒井是也。楽廣
が家の弓を盃中の蛇と見てし。浅衆八郎為
朝ハ強弓の感逆人とかりまれなう人君と
ひろそひらりのの弓とろうるりを見ゆねるつ
判官義経の弓の弓をおとしき。義る
あゝうあよらしそすとよせしや弓よまとの
てしとそこいあろん射中とのむしいる弓を
加くりへ向く御とハその人毒よおちる魂もし

床（トコ）

欽会　夜徘　病　隨絶
納涼　生贄（イケニヘ）

曽子浴とらんに轟とそーしとらん床らうく
わか身ハ起中の蒼生をもへの見えてしらす
ま二十家の床の外よりよゆかの清きをそふとて
とらかなん川恵のよ床をとして治浄をてもえれ伎
統方念仏のからうらしに床をなしゝ道心者
てんとさまうれ毀かぬえを封すらし山伏の
大床よ関きせらし
湯殿(ユドノ)　行人　妻の婦　義経の良経
厠(カハヤ)　雑(キジ)　松茸　山伏
強念ふるく平等衛(ヂヤウエ)湯殿よ入湯とし立ち。
此湯殿とて女房のつかひのわらい病なき後
しそ身をわらひ行らこそ白らかけ立
湯(ユ)
沸茶　金吹(カネフキ)　粃糠(ケサウ)　紗力　疱瘡
瘡(カサ)らさ　髪そる　絹の衣の氏
生れ子　出ハ　挽茶(ヒキ)　双(ヤギ)　酒壊
纏綿(カラミ)　立る　鎔鋳(ヌキ)　八瀬の里
不破　熱は六
三代の帝の産湯(ウブユ)の水を汲しいハよ三井寺

と号せらしとそ。かの南よ湯のしらさかの流れ
わり。華清宮の湯ハ楊妃の湯わらしめ宇治れ。
またくもりりまとそて立　あり女を人ハつくまのの湯
かふのまつかり。ミハ有妻三人同盥(ヂウ)而浴と
と荘子にいふ。風聞(フウブン)　沸(ワカシ)尚無食(クラフ)とめらし
きこゆきさとこ婦の弥なるゝとつしるるの
出湯なりまし。踊躍(ヨクヤク)其着湯ニ　嫌辞し
湯立(ユダテ)　うずまきの宗　挽茶　万気
会らく　病本復(ホンブク)　産の忌明(イミアキ)
壬生の念仏の狂言そとらやうかなるかるまひ
これいつまの弥陀もわかるる仏とも祇園
なのならくびくしきるのてもそれみわかり、
ならせましせもやわくまし　とかりなかの湯
をまいもて弥陀とうくるぞ
不縁(ユカリ)
捨し世　武家　武蔵坊の墓
こふ縁(カリ)が　古塚　ゆかり餅(ミヤキ)
むかん人　落人　しかされ
かけ念さゆへまつくねがおそろうかいなる

遊女（ユウジョ）　張篭屋（ハタゴヤ）　紀志　金山（カネヤマ）　陣場（ジンバ）
三藤　呂　雅楽（ウタ）　宮の宿
吾庫

この宮の遊女が独をどりつくひたそて是
やうらうあいこをりうとうあくをさへ
て酒盛をあくらく・学子（サシ）子流の席ならひ
の後よおそ〜まに〜にくり出いの出遊わらひ
わくらのうくれやとものわやくくあるくさふう
ぬくく・ぬくむみて宮りふくりぞくあるさ遊
ふせ〜い遊女ゆくくやいくくやかい町いさ
もちへ遊女（ユウジョ）くく

遊女（ユウジョ）　柳　食祢（ジキネ）　くる内

七条堂場　松吉郎
実盛はあくく沒後の民
ふくくひくくけくくあ山くれ彩立くて
壁くあくくくくくくく沈ま三孫ガの蔵

指（ユビ）　浪多羅　紬　小四の病くく
汁立　豚　さくせん川　弟色
知中ふ　りくく仏

蔡頂り母指とくくて宮のいくくくるとくく
しめくり・虞世南学書常於楷下以指
畫肚（ハラ）い指不著人則知悪之心之不美則
不知意い蓮實大如指（ユビ）く

木綿（ユウ）附名　お坂の実　社壇　三藤
竜田　祢興　鳴の宮位

ゆあくくゆあくけくあのあり・くくあくろ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

往来（ユキ）　呂　市の陽　ちる美　金張実
秋郷中　楊の広　わくく糸

旅人
礼ハ聞二来学一不聞二往教一。礼ハ尚二往来一。往而
不来非礼。と。ともに礼記なり。わかきものゝ
ゆけるよわくハくるそのゆけるくとかく
もろめのまかくわまのわくこゆゑなり

結（ユフ）　髪　縄　筆　纂　桶
極　葯　字　ゆく

ありてゆかりくきとまろうまかりまかく時
なくおもかゆうかお枝の東をゆひて酒で
ことし。獣の毛を結て拂子（ホツス）とせらるみされ
ろう産の最ゆくせきをゆひくるあてことそ祇
園会の絆ハ丈くこ縄ゆゐむ

ゆるし
水囲　科人　城子　藝能
許役　ゆるされ　鞠
菜食　ゑりゞと
兵法　業

楚王之為人也形而厳其於罪也無赦如虎
結んでるひのこのまんさ
けうりちりにてすかゆめ。子曰与其進也不与其退也
ゆかやけ浮ゆてつかあふ曲のゑから

さハさうそこハらとハ二条の店のろのこ。うま
とまらく人のむゆわくまつうらくへの旅おわくと
うかうさらとまさ人あまらハちる代ゆうしいか
のうあひある

譲（ユヅル）　家督（カトク）　職（シキ）　位　国　世　畔
寺　礼義　最様

家の主家ハ子よゆつり寺院の伴択（ゴモリ）
子まわくふ三くひ天下をゆくゆつまでとうけ
ざとハ泰伯と伯夷叔斉がゆづりハ末代とぞ
もろくと。斂近　無因物ハ代このゆかもから
穴。泰山不譲土壌。一家譲一国興譲とぞ
所逸の譲わへし協とうりく芋めわく
ひよこつくらハ去無浪たり

揺（ユルグ）
地震　虫歯　秋　くるあおれ
梲　風の末葉　多翻　高の要
柳の枝　のうれん　すぐれ

つきやまえろろ石も土竜（ウゴロモチ）のうまハバらけ
又浅の主根ハ三ゑまえても五寺まてもゆる
る所かかさゆへよゆるくなり。假よあけら

[illegible]

ゆとる　だいこと子　雞産

木実の桜　こと子の猿

橋杭　[illegible]

[illegible]

風息太虚　竹動樹教之

湯の山　竹細工　楊枝　楊枝　眉作

[illegible]　人形師　鹿下　茅刀

引地の[illegible]　[illegible]　不破

[illegible]

弓掛嶽　大和　痛足川　[illegible]

[illegible]　[illegible]

逝迴岡　同　[illegible]

[illegible]　[illegible]

由井濱　作刀石　[illegible]

科人　近江　盧久

万木杜　紀伊　[illegible]

由良　紀伊　崎　[illegible]

紀伊の[illegible]山　[illegible]

[illegible]　梶[illegible]

上野　[illegible]　[illegible]

湯尾峠　越前　[illegible]

[illegible]

女

名月（メイゲツ）

半大豆　そなれ的　詩作
奇の涙　くくり姫　小夢屑
紅包の妻　奇人の記　出雲遊び
珊瑚珠　くろ　放生会
高公傳説の満仲の館よりいくれしハ九月十
三夜とし　刑部卿の妻つがひとり姫ハ名月と
し　源氏物語の宿よ入ゆひ　八月十五
夜　月の光　月のけひまかりの松屋のこと
なくくりもとそとと　ものうよ妻の風こ
そのけもでも沈つ　名ハ月よえそ八月
十六夜　和歌の家　くの御とる　三年もよ八篠
堂の屋　くく月名　ゆゆ

名所（メイショ）

月　ハ　和歌　乳　猿紅
紅くを　八治の里　俊成者　屏風の絵
井戸（ゐど）　会　名れも　駿河　眼病の薬治

紅の名　そそめく　詩のそ　くめくと
やくく　名れる　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
とくく　ハ月名　浦里　そ　ろ　す　し　六条
河原　沈　く　屋　ぐ　ひ　ろ　ろ　ろ　名の名
ハ　名れ　ハ　そ　ハ　恋　ハ　そ　ハ　そ
ハ　の　ふ　の　名　く　と　ろ　ひ　と
ぞ　大納言　ハ　ふ　奥　別　下　四　の　ハ　み　ち　の　く　ハ　川
の　宮　と　そ　ち　の　ふ　付　猿　の　衣　と　川　く　衣　冠　ぞ
そ　ふ　か　ざ　り　て　か　る　名　る　ハ　名　和　と　あ　ら　ま　ん　人
ハ　ま　ろ　ふ　く　ろ　ぐ　ろ　ぐ　ち　ぐ　ひ　て　ハ　ま　雑　さ
ぬ　ぎ　ー　し　し　ぞ　五　系　の　業　平　も　ま　ひ　ハ　ぐ　の　系　下
ち　び　ー　げ　し

名木（メイボク）

雑波の梅　ろ　の　の　松
三瀬の孔　く　ー　ろ　橘　岩代（イハシロ）の松
幸（カフサキ）波の松　くろ　ろ　の　ま　ろ　ろ　の　松
鈴田の紅梅　清水寺　清瀧の橘　古寺
祇社　伽羅　乃の人の杉　ろ　柳
梶　ろ　ろ　く　な　ま　ー　ま　ロ　ー　橘　ハ　名　ー　ま

代よおせり。彩色の梅ハ和泉式部かうえしこ
え。太史の官紙のひし松ハ吴会の名木よろ
や。逆照象の象さくくともうてハ宮前楊柳
寺前荊とそなかあさくえせぬ名木なりとも
うえり

名人（メイジン）

罰利生（バチ）　古社　弓　医師
鞠　謡　作り詩　謡う寺
琴（コト）の音　めでそしらぬ　盤上（バンジ）

大やけまめし出され大りんの棋招せられたくハ
名人なりてハ橐駝（タクダ）ハ本とうゆくまのぬ
人なり禹王はみを治くの名人も勝負が
勝ハその子まもつくんがくし勝敗の名人ハ
勝負のらくあとまろが大事とつまくまよ
よろげなと

囚人（メシウト）

訴訟　陣（ヂン）　乱世　宮衛
去学　為薦　でいと　縲絏（ムホン）

周文王もとらえられ越王も呉王の為
しめられし。治計（ハルオ）ハおつとのあまそう
むれ冶長（ヤ）も縲絏（ルイセツ）よりとかれ全生の

此をまたとけられしハ杉付の柱に従ひう
公竜の太鼓とうけく狼乳せしハ閻浮の
の妻なりが何の合をとみく業く尺八紙
ゆかしくそありら　あま

妻（メ）

康猫　八　雉　鶏　牛　鯨（クジラ）
松　波　絆　あやこ

こゝも女ハ女人穢の制の不あれハとてめ来
もさえとくく東ハ命をいぶえよく礼記
のとうへて営るのめハさえうくく鶏のめぐ
ふむくず妻のさくいがくしとえさる酒紙
りて赤縄（セキバク）のりくに真わそびせし。ハ東坡之
娶妻如何告父母ともそうり。糟糠之妻不下
堂ともろこ大官とあつけらりんとまてし。と妻
みくうりくうけもして容膝（ヨウシツ）をとりんでてハ
りしえかえ其妻よ礼せくきえろしハ朱買臣
がまつくさゆのふすえ

女夫（メオト）

七夕の星　蚤（ノミ）　鴛鴦（シレ）　雛（ヒナ）
酢貝　天（テン）のうきろしのなか
羽子板の絵

男山の女郎花の枕詞の幽玄なる
おくらまくあらばかくらん女夫鴨は山月乃
かくらんと悔日よりも女夫枕をうらやむ
すなはち人よ人をもあ同新女夫かな

肓

蛇石　第川　乞食　素清
蛭丸　疱瘡　賀茂の社

阿那律　あまよみ

名漸離、筑の上手なりしが始皇の敬
のゆゑりをもとて鯖を毒薬と入て肯う
てのちうち。靠の文も肯同なりなりひし。
たの同ゑあるうるうるえ。ごと魚の鱗をすく
彩絵をうつくしひしい上絵あれ忠文なり。家
人の親みともよ同肯うると孔子の古祥な
ものひしい岩妙くそ。あくどめくる狂
ほのくと沒ると作　めるとそ

同

綱　篤　磨　碁盤　秤
本のり、布　結席子　簇
やもり　恤　双六の賽　山椒

百錢　弓習ふ　布施行　伍子胥肯
皇甫作詩止駿　駿とり清盤清のもの
蓋あるあ鯖ぬしくらとえそうり茶漬
より涙よ出くろ。ノみれやそもの同より彩
そのうくふ。臨宣　紙同とく独楽園記し。
信目仍信耳ゑ。荘子曰風隣肯同隣忘
人の多よ同だりつくき知なくそ。ハ魚
しくありそざくめく。懸五目於東市門以
見越之入矣也とハ伍子胥の同。社風の嗜よ
つけてもあかあくとくいしハ小町の髑髏の目
ちり蓋の出あるうとそ。鷺以肯而取船とく

目言友

方以の涙　灌頂
積塔の定　科を行ふ

めるくどうくあるよつ井くもくまとと
そうぜあひの碁ハ上手の勝とそうえし。
鞠よ社と分らく磯ハ狂玄の仕業なり。
海月いくくるそして目なくくそ

目賀

秤のくもそ　茶碗　椿物と
竜の絃　射鄭　面鞍

網くゝる魚 鯊 鰐 舎利弗

白鮫の粒のそろひたるハ人の細工にあらず
きわめておりたれども龍の代につくりきたる
名作ハ人の至宝とも京町の浮わる町
まことそろうなる目要といふもむえ

面

鏡 粗玄 伶人 嫉妬 百姓
稲荷の神輿 式三番

伶人の奏行ところへてその役にハ朱帯し
て舞ひ出つるそ名なる人めでても猿楽
あハおもしろきにて。三十余の舎紙ハ同じ
やうなれどもすゝしつゝぶゆえつまりて息とも
よろしく嫉妬の神ハ面をかけぬれバ悪鬼
とのごとくになるひしつるていぶる面と
てさまざまく火祈花龍すゝの物も鬼面紙
なりけるとなりぬ

食粒

米の子 魚つる 胝 瀬
鵜 餓鬼 鄒 せゝるぎ

文を封じるよ糊あけし石鳥花の角よ
おのぞ。鶴ハこゝにとりてるとひろむてその

ちやまん山伏とふんとひるねしてたね粗玄
わり。年寄女房と足のうらの合ひつぶハくる
きれいにこそ

銘

刀 葉 石碑 這り縄
君の作 日 硯 墓袋 姨
様の舎宝珠

ろうの盤によかざりハ山石にもわたる門戸にも
ある名道の名付る也てくさまの銘とか
そくし書楽ひらのかげ名所のも銘の物そ
あこ湯盤銘よりくとぞいふり。劉禹錫が陋
室の銘また張子厚が東西の銘あり。坐
右の銘ハその者のいましめく

恵

君良 父子 佛 天道 日月
神 霧 名君の恩 飢饉年

仁流秋津洲之外恵茂筑波山之陰こく
聖主の民をめぐみのめでたくかゝれバのめ
つちのひらけしめぐみひさうのとうとくぞかし。
君のめぐみのふかゝ人ちはしるこの光照ともる。
ずさいるのめぐみをうけ百姓ハ恩のめぐみ

管仲之仁子産之恵

廻（めぐる）

月日　因果　磨　往反　ふるぐ

月行　竜骨車　ふる　常数

聖子　腰の帯　年忌　星　轆轤

勅宣旨　田の検分　数の名

俗名者　死亡三十三所

韓信　歌舞去　餘響遶梁　陽神

滴如琴筑　月出　遶雲

めぐる

月　死　去の茎木　淺面

名　ぬし　器戸の苔　秤

義

帝（みかど）

蕎種（そばだね）　立烏帽子　銀杏の実

蘇　欽先　撰集　栃栗

死海　吉野　裏　濃波　湯波

紙の上　山門　竜田川の前

ひんぐりの滝のみくりくりと

ぐるもの　松茸の神　松尾八幡

ぶ世の帝　たくし　髪かうしのくく

うこしのしとひ　ぶ巻の号八帝よ

ことはりに硯箱を極めて此家を著せる
しそのことくなれ

行幸(ミユキ)

花衣　子日の松　狩場(カリバ)
花盛　紅葉　連ね行
初雪　作り　大原　小倉　大井川
車　神楽　乱世　地震　供奉　山門
弔ひ　漁民の島　芹(セリ)川　さが野
猿沢　辛崎
行の江の岸の松にわたりて行幸よりて君にくく
ゆかし　而后掌手与帝同輦慈孝寺ニ欲乗輦
先帝而行宗道曰夫死従子婦人之道也后
遂命輦後乗輿　それ海しらの波のをとし
湯ころひく今こそゆきさの都もしろしれ
みて君いくそのうち　以年紙つくくふみをも
さは待るそして　漢明帝ハ桓栄カ病ル
をなわとらくちさ家ニ幸しあひし

宮(ミヤ)

琴(キン)の音　弓の絃(ツル)　注連(シメ)の内
神灯　秋　松風　若菜

みかぐら　拂　花の白ゆふ　高(タカ)一(ヒ)八(ト)けり
吉野　参内　大原　小塩山　山科
雀(スゞメ)門　詣　忌(イミ)わき　宇治の橘会式
山火焼　ちくの城　東海道　蛎(カキ)
大宮の内ゆかしたりしめくらしくふれたる宮
みことねとし肉裏よりさるとつける紙
何をそかも宮ハふかくし宮の内まちとをなく
らし往来みに昇(テ)ニ崑崙ニ以観ニ黄帝之宮(シ)と
八周穆王ハ駿馬ニ乗りめくりてしるすへ也ゝも
らるともさそしあなれハとおわり

神子(ミコ)

肉裏　松雲　土御門　占ひ
榁(アヅサ)中陰　神の化(ケ)　口よせ
湯立　摂祭　わかさ　惟喬(コレタカ)
安藝の厳島の内侍とはひしも神子のさ
ぐひなり大原(オバラ)の神子ハ門にに居わて神
子のやうなるに紙袋もちなり。六条の院
息所をのりうつせしハそれ神子なり。
神子か渕より高(タカノ)あ野門よおれ

瑞籬 梅 葛の葉 白ゆふ 社
移 三橋 住吉 賀茂
井の石ふるぐ 神ゐる山 ひさぎ 紀
ふるさの神の社代 ちはやぶる
まもりくるあそひすもも 榊 扶桑のえ
ふるぐ ふるめるもの 鶴の羽 絵
るしてかるくしくれ 瑞籬宮 中臣 帝
しかるうさぐれ行のそもろうくるう
このともあるを

御稜

源 雲せのの 雲 鹿の月
賀茂川 源の流 なるのの川
雅波 志賀 鳴の神 鳥羽殿
みそぎ川 洗川 ろう川 佛
ものこそ流れの ものうの川のちぎりのよ
せ みそぎ 賀茂の ぬぐ 袖衣 禊
のとものあるみそぎ

記云至筑紫日向小戸橘之檍原而被除
馬遂將溫濕身之所汚穢而生出神の
うをろ出稜 御しるしの
源 俄 神の

已の日の稜

鶴合 雛あそび いろ系 鳥
蘭亭記云暮春之初會于會稽山陰之
蘭亭脩禊事也注上巳於流水上洗濯祓
除去宿垢 人の舟
ものうの
已の日 水成巳字 初三日源起周年
後祭霜

三寸

祭 月日 伊勢講 禁中
首途 榊上 竈の神 お火燒
神樂の庭 武隈の二木の松 馬
三寸 造酒正造酒佑 八百女 松風
月 造酒 造酒佑 八百女 簾

[illegible]

波調詞

波ゝ世　敷妙　車　馬
氷室（ヒムロ）　ゝめく　紅　赤
雅波の敷　せゝこの衣　小腹掛
外衣　袖　美衣　狩衣　る麻呂（モロコシ）　唐衣
波麻の鬼　仲麻呂　吉備公

[illegible]

衣しゝ人

さゝの衣　衣の袖　袖ゝ
人ゝと思ふ　月衣　ゝゝ

袖の花　ぬさ　ゝる袖　清まゝり
袖を　袖宜

[illegible]

歌

柳　揺　花ゝる袖　ゝけき紅葉
小車　月ゝゝ　ゝ月　月ゝ
ゝゝ初雪　紅葉　連歌の交
波ゝる君　ゝゝ　司石　竜
琴の音　波陸（ミチノク）の中　歌人　ゝ歌
雅波　布留　福原　奈良　ゝ
袴の美　つゝ花　碁（キ）　白川乃翼
長思　塩竈
下総国さゝまの郡より歌を立しゝ年歌を

[illegible]

篠（ミス）

小車　宮　菊　[illegible]　社頃

鞠場　京焼　琴の書　俊見

初午の日稲荷参のみとよめるとうる義義

とうろし　[illegible]　よらふのものいとおりしろ

どりしろ　[illegible]　とのつまうちさし入てと

わり。篠竹の軒端に幼雅の弓の二位の孫尼

篠とうれしく改と[illegible]

[illegible]

わくらにみるものうらのかひなきものかりとしにさそくかりさる

さりとてそれよりつとにさそくかりさる

初花雪の朝しうへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

澪（ミナト）

泊　芦　厂　浦　士人

絵　汐　潟の松　芦田鶴　松

浪の月　難波の浦　与謝（ヨサ）の海

いな野　比良　由良　紀の海　紙

[illegible]　市　篭履（リ）　兵庫　三宝

紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

汀（ミギハ）

つるのさす　大原　うらを貝　渚

魚釣　網　釣　鵜　ひな鶴

澪 松 沈菅
沈みよ汀の橋ちら布く波の花そさ
うりなるとされ。牡鹿の七騎高の河ハ幸平
と行よ[illegible]ちらしまて汀よ
湯ゐし沖の白洲よ汐やうん

湖（みつうみ） 志賀、ミこ海 箱根山 須賀
世安遊 入鳥 祝 瘡 脛 白蘇の花 鯉
翡 宇治川 松江

さなゝゐ小松よ[illegible]ゐ浸せハゐのゝ
されよゐひまゝくなく湖の鶴し。笛吉漏
ゆゝて湖おゝゝゝ。西湖ハ梅柳の居ゑよ
して西天ゝ京行ゝ[illegible]

溝（みぞ） 鼈 背中 麦居 川 溝貝
田作ル 小役 芥 鰍 白魚

門の前
決渠降雨（サクテ ミゾヲ フラシ アメ）。小溝一夜水三尺便有蛙声
喧（カマビスシキ）而隣（ミ）。小山田のみそ井まゐとゐくのす
（ゆ）ゐ[illegible]ゐ。禹王ハ溝と踏てゐ

水（みつ） 祝 多 寝耳 桑 梨 瓜
茱萸 菜 結髪 萍（うきくさ） 刀とぐ
雪洗 ゝゝ掃除 楸木 早苗
瘡 墓 科人（とが）ゝ貝る 洗濯（せんたく） 花生（はない）
火用心 書（ふみ） 彩ひ 彩田 汗
麦の粉 竜城 蛇

白鷺のゐと一度祝ゝ入ゝ六年の君大
級ゐと玄字ゝゐゐ。子産仁如水ゝ。陳無
已天下之屯其讀昏如島之治水ゝ。礼記云
小人溺於水君子溺於口大人溺於民ゝ。水
至平端不傾心術如此象聖人ゝ

水汲（くみ） 三梅の井 楢坂の女 祝云
火事場 壁土 小鮎ゐ
君玄姫丹のゐ祝汲ゐゐゐゐの形のゐ
はゐゐとゐゐひゐゐ。拳の氏女とゐゐ
かゐ川のゐを汲ゐ井ゐゐ回ゐひゐゐ。伝
ゐ仙人ゐゐゐゐ菜ゐゐゐ汲雑ゐ

[illegible]

水溢

月白 名 牛馬 炎天

川狩 五月 行人 火の汚

祈雨 富士信仰 清滝 師走池ごと

文川

文月晦日八幡宮の祈禱あり。くひひとて酒を出す。くまつけ合とせり。[illegible]を入て[illegible]あびせるとの口。笑義の人[illegible]おくりけれとて川あるのくぼ

水無

[illegible]穂 二月堂 作る田

敗軍 蓮池 竜骨車

昆陽の池 氷

生田川

名所の水無月

[illegible]義の絵 [illegible]穂 茄子

氷室 [illegible]

小麦餅

[illegible]

水無月

[illegible]

峯

松 紅葉 猿の麦 白雪

嵐 月 [illegible] 古寺 さらしな

大刀刀 茅師堂 ふじ 六月の雪

数峯如琴雨中青。[illegible]

山のこゝろ[illegible]

のさゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

微塵　ちり　塗物　風　掃除

有一世界微塵數菩薩摩訶薩　法花
經　みちんはおさんと　紀系抱の所やこうとと　惟茂
と佛ちよそわ

弥勒　吉野　三井寺　この世獄
　　布袋　多くの宿
　　布置
　　僧慧澄　繡弥勒佛一本　晋賓之常曰是佛
　　好米汁正字吾性合吾願事　白川海
　　の吉田のおの大きこの石弥勒あり

水莖　器　記念　芋　ちせを
　　蓮　藕　杜若

なるこんの大江のをしのこのちせハちよ
めを

南　月見　花始ちく　人見ぬ
　　八幡宮　海風　海ち屋　堂
　　記事　高野　高清　離の郭　浪
　　勢物　男山　東ち　紀の海
　　補陀樂　軍茶利夜叉
　　夏遠南冬遠北ちの蝦のちの　昔日
　　やこの南ちうぞ　ちの蔭なき
　　ちの南の風吹ちく　温てたて
　　めちくき　のめのこちも　ちうちみちの
　　源よもちくち　ちの内よりてる
　　ちく　小ハ黄ち南ハちくち　ちの須弥とちり。
　　南向通　笠掛ち場

道　佛法　儒　孝行　医師
　　賢者　山　双六の石　庵室

十六ひさ　蛇　美しひ　捨ちち
ちの山ちハ　ちの山ちハ　ちの下ちち

て乃ふ之えくれ。梶原景時終作の科よ
徑途中の乃作〜めるる。孟子曰仁人也
義人路也。そ物の作ひとを乃ふ物をそそ
ふてくれの景なるるすすとる。道也者不可
須臾離也可離非道也。君子務本本
立而道生孝弟也者其為仁之本与

乃のべ

清水 柳法 歌ふ
淡海 ふるの橋
尾張ぐりく

乃のべの行すの柳ふくれだわくれひ
しことものくれるるるぬ。ふもる藤人わくれお
ひなしくるるるしるるのくるるるるを。
ふるのくまるるくふるくるれてと者も
こに藤ひるもせん

乃連

湯の山 紙 歌の会 淡海
蛭の熊野 糸り 橋れ法
追ふ死 追服切

宇治の和会 浄土法 歌の乃ふまるぬ

ふるるるするる人ひるるるふるるるるるるるる
ふふる中物の赤下るるるや盗人ふるるまるる
ふるるるたるるるるるるるるるるるるるるを
ふるるひるるるるるるるるるるるるるるる人
ふるるるれるるるるるるるるるるるるる
しふるふ金八金和門ふ多るけるし

蓑

旅人 狩人 殺士 ますらお
永長 市女 山賊 かぐし
四捷 乞食 猟師 る上 竜
屋風 かり 猟 達業の猟
小町 蜘蛛 虫 学人も

かれるのかれ笠ふもえてしるかさふ
とんふふ〜ふふふふふて拾生こずこれるか
かふるるるるるの物風ふふのるるれて猟た
てるるる。蓑ふ笠ふもるるすふてるるるぬ
ふふるるるるひ本ふるるるふ敷物ふ幾回欲
解蓑衣當又恐明朝是雨天ふるれるふ
この笠たひけてくれふるるたのるるいそふの
濤の猟師へ

乱髪（みだれかみ）　柳の風　雪　狂人　狂く

破屋漏　こちぬ書

紙太史　寝起（よりき）　風呂わかす　梶原

ざいつる

もろ〳〵ふるもろ〳〵すくろ髪のみくれてけ

さいあ紙しそおり人　祇功皇后　吳服退治の

河杉浦　ちくばうしそ　私しそひく　ちいさ

のひしるるぷ人　めいさうひい　笑うらう

ちをつるれく　濱まち

太刀　うくるる　徒　みの市　魚

另

名　稲　身躰髪膚受之父母不敢毀傷孝之始

身躰髪膚受之父母　ちるの人

也　清られとなるおなくぬ為の俗しさいみ

うけるものよいをぬなりのわ　ちの為つくうう

うさ人ど紙ちくふ石よろ為をなりをて

めつさくんをけて人のいくををちられる思ひ

ちるくおくんひちるる　ひいき時八月一日と

しつり　觀身岸額離根草論命　江辺不繫船云

身者心之舍也云

另よ入　紙元の紙　濱乃家

うさおひ　菊の香　衣うり者

衣のうれり　花の匂ひ　刀のさび

湯治　汗　癒茶

野への秋風　為ものをそうつくるる

とちるりたりとき法のをしへを学て片

為めしそるるるおれるるか

しるるるるるもえちるもやせうるるき

けの為めしそて　られくこをひ法す

ちの風紙為ふしめ　しめくうのくけよ月を

みくるん

另掐（もけ）　刀のうち　菓の木　世常

猫　鄙（ひな）　徒

京の人しそ衣紋（えもん）法ちるひ　なるもあ人

ヲ生々山水のりの品ちるるうちるめる

らひてるもを　火（ほ）火生見る法ちよ三年ま

してをふ姉ちでなくずなるをのふるや

略門より流れ出でて矢とあの如くして
かりそめ懐胎せりと

為となぐ

捨刀　寄永の社　柳の浦　鎧形海
和海　鎧沢の沈　乱世
虚偽の形　うしろ世

為振

猫大る中風　癘　夜這　彩花　蚤
爆掃　膳病

眉目好

女子美衣となりあわれなる人の宮妃と生まれたる人の君妃となりしかの
三位浦人多の見て言く花しい希なる面
とりやすの中のとあり眉目好しも眉目好しも
浮し眉色如望遠山とりひし卓文君うの

眉目恥

うしろの形　素搦も　餅
比丘尼　姿舎　昼の鏡
夜叉神　嫉のいそへ

諸葛孔明はみうくとめられしとしみめ
きりの婦よりもあれく無潰名香とりあ
て二度あいしの香乃流とや黄帝納麗女
号嬪妃使訓官女而有淑徳とや。懸想文
流りと何よりとよそみめりとかあ乃雄の四四
俄に吹つる風の音に弱しすくまいい
あ行ひ多ひ多いしてしてこらわれと
八重垣門そのすん宮ひりとあのとて
さりやすくこ八ひらびし

眉目好

女子美衣となりあわれなる人の宮妃と生まれたる人の君妃となりしかの
三位浦人多の見て言く花しい希なる面
とりやすの中のとあり眉目好しも眉目好しも
浮し眉色如望遠山とりひし卓文君うの

眉目恥

うしろの形　素搦も　餅
比丘尼　姿舎　昼の鏡
夜叉神　嫉のいそへ

諸葛孔明はみうくとめられしとしみめ
きりの婦よりもあれく無潰名香とりあ
て二度あいしの香乃流とや黄帝納麗女
号嬪妃使訓官女而有淑徳とや。懸想文
流りと何よりとよそみめりとかあ乃雄の四四

右左 斉合 高低の差 善賢文殊 縄の目
五器著 大臣 育の長さ
目 鼻の穴 まな 斎の目 張紙
五能魚 茅 爪切 芋うむ
判数 曲尊 天秤 二五暦 乳
張子厚の銘と右と訂頑と愚とに
懐胎の人 女房の男 鳥左
顧則恕作右則喜 ひら茄子
とりかへ くさの むし 苦し 天左旋地右
轉 とめ 逐ひ 男二人
とうふ

耳 兜 昆布 絹 升 蛭 蛤 鮑
莚 鼎 たくい 坊主 六十六年
許由 塚 忠言
表耳 ところ 八 女房 貞心 ちりやふり 弟 耳
こそ れぬ しさ 行ろ 年 あ 芭蕉 無
耳聞雷聞 下学 以耳聽 以耳聽者 学在不達

大発 ものさし ろ ひろ 人 八耳 と 紀人 まこと
ろ 数 の まつ け の ね ん も 実 の つ こ ろ ろ 同
とい こ 耳 と ば し と ま あ り と 彩 古 今
の序なり

源山 さくの系 名 樹 鶴 松木
松の書 歌 源遊去 笑の名
甲斐源氏

左山 まの その 指 ふ ん ま ま し こ ろ し
ま と ま あ と 左 山 ま ま ま と ま
と ま ま ま の 陸 の く ま ま ま ひ ま
ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま
ま ま ま の 奥 る 住 居 し て と 女 房 の 山 郎 ま 元
ま ま 山 の 奥 る 住 居 し て と 女 房 の 山 郎 ま 元

土産掩 田舎 帝 寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝
寺 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝

葉をもそれくのりこうけいをろん。
人ようろうんこうさろくろもとに智とそと論とし
しも紀多くい神ようろ父くりそいもんとあり
めしこうけりり

足蹇

医者 焼亡 大多 病人
為ると 田畑 祈る 婬入
生産 檀那 普信 多の場 養養
洪水大風大地震ハ親類ちろくるもつり
おし男女人のようしてあとろ逆ゼらる
ハ空ゑ点しなりて上。鎮ゼるへハ樂ゲ変ん奉ゼ。
又ハ紀多中のか人侵をゼらるゑれハ抜れ
ゑ多ゑとくろ作るうりたしひ

味噌

蝉 海老 酒 田楽 病人
やき餅 ろうれちろう
麺類ゑくん焼ろく味噌と用ろもはり灸
ゑ味噌成ちくさくいもろ二川の療法多。
しかるうの味噌汁とともひろがろーと
なり

緑

松 柳 柔 ろ 長ろう 鬢
眉墨 室 海 苔 聟 婬
子 死ハろ色多并
千里鶯啼緑映紅ろ。淡みくり花もひろう
かとくろ多りろよくの長の秋の月みろの
神ハ六後のさうろくくろ。呉行の多ろ色
ろろ紀のくしき世ちみとりろる

蜜柑

紀の姫 八代 茎芽 餅
脂 古今の注 植込
十秋の注ろくとこの仏おのりと知ろハ
ーとさうろ死ちなり。鞍理西ろく淡濃茶茶
ろろ又一点ろり中大焼のろる人物ろ大方ろう
ろくろ多ゑしろつ。陸績ゞ橘とふろろ世も蜜柑
とろそ多ゑれ猫ろうんのるり

蚯蚓

魚ろう 世ろうぎ 藪の内
実天 鶏 鹿宍 畑
真毒失勢同蚯蚓ろ。天者正可恃而人者恥

勉也解不如剖ニ臨川吳氏ノ諸ニ黄帝時蝮
大如虹土氣勝故也陳後主時隋軍至江蛙蚓尽
出森然如積篇ニ蛙ハ蚓ニ成ルハ必指似ノ如ク
ヨ小便ニ成ルハ必指似ノ如ク

蜜

煉茶 蜆蜂 餳 熊野
生姜 真言 唐紅

韋提希夫人ハ蜜ヲ衣ニ付瓔珞ニ漿トシテ
禁獄ニ入レ玉漿触ノ如ク世謂林甫口有蜜
腹有劍ニ燒物ニ蜜ノ如クシテ人ヲ害ス
しきりに病ニ秘結ニ蜜導ニ
とすすとる

乱

髮心 ちりひ 恋 碁 猫ニ
行列 曉の霧 唐の連 藩
海さうげさ 酒の醉 柳の糸 糸
編笠 双 淺 笠木 蕊 芦
板木 足 國 瘡ニ 毋ふ
子の髮 僅元平治の世
のこふ

つ
つ
の世風は乱りかはり揚国忠ノ専ラ天宝乃
世をみだし猛禽入乃ち權威ニ元亨の世をみだ
しくり乱緑野馬草深春ニ

三月

正月 ちはやぶる 卯月 卒氏 張騫 文月 連ち
揚月 敏の月ニ
裏白の連歌 桃の酒 よりき 解
鶯ノ七 己の日の秘 曲水の宴
行事の塩ニ丁 和酒 麝 石山参
土佐の酒の紙石ニ 冠ニ の牧猪
菊水 清参 縄
楊時ニ
其生也三日而不生亦不生矣礼記ニ取婦之家
三日不舉樂思嗣親也三日の祝ノ
しきりに

豚

矢の根 歯 玉 月食 鶴住ス
藤弦 切石 真言の札 食和

かゝ　人形のうか　衣裳の絵　桶の桶

海松布（みるめ）　磯べ　須磨ひ　芦屋の浦

袋　芦の海　難波　大浪の浦　次波　南の風　美の松原

房総の海　安房の海　大浪の浦

摩耶の帝は紀伊の国の名所の摩耶山の摩耶の帝の廟

霞（かすみ）　行の霞　月の霞　霞の霞　松の霞

霞の戸　山の戸　釜

霞（かすみ）　夜の霞　春の日　うゝ衣

兎（うさぎ）　兎のお足　暗のあり　ちゐがの髪

短（みじかき）　行くえの日　乱のうゝ

短歌（みじかうた）　ほゝゝ　蚊の歌　春月

芝の春　海の春　海の鶴　ゆう鶴　ゆう死

語ぶり　花　うぶり　ゆう　ゆうさ　竹

侍ニ宵のうちハめつらしとことに也もみしかき秋の夜ハ縫の座ハ蚕よせてられとく宵もしきそでね八三更五更の名も也六時勤行の人ハ格別とて只せんせん春宵苦短日高起従是君王不早朝

起と思(オモフ)

猿猴の月　暮もゝとゞかぬ
夕桜　左近(サセン)　御神事
世の捨し身　むかしの友　須戸浦人
難波　古実の花園　小野小町の絵像
秋風そよぐ白川の関

深くしの海の舟またく思ひうしのかくの住居しそわうとう見れ潜踪起こひしく切ゞけししくそ石使わ見れ実方ハ蒼葉とうち菅家ハ雷と秋しかひしみてまうゆ嵐わくくおくろめりこやこもとや起きむかなりけん山里よく月の起とかりふとくいふかと起なるわまつくら宿よむほ今月よりめらんふろうんとよみしハ去宗か宗し起の人のわしまうけもまつりしさよひハ梅か兆し

神輿(ミコシ)

火燒　祭行幸　遊御舟
御殿　沙汰の假標(カリヤ)

摂州本津今宮より祇園会の神輿をとゝきまするの役とも帝都よりさまりまてそ山王の神輿ハと内裏の門まよみりーく祇園の祭礼ハ神輿ハと三門の下にうつしまれハその末く龍とえしむろく稲荷の神輿ハ東寺の南門よりのよりて御旅とそろへ集るの傍ちらつくあまと

名所

御手洗(ミタラセ)

山城　喜ともの　大ぬさ
夜様　清の清水　亀
行幸の杜　糺のみなの神　小忌衣(ヲミ)
だんご　榊の露
同山河渡里　惟高(コレタカ)親王

水無瀬(ミナセ)

山崎　神足　宗鑑
玉鉾　鳥基の駒　楠井八幡山
交野(カタノ)の里　古杭杉　まされぬ里
藤の洞　埋木

義豆 山城 野 上野 佐殺杜河里
渡 妹ぐり みさも 又月毎
山城 浪 美菰 芦 一口 弱いそふ
雲 タグかの花 ちまた人
壬生 同 合仏 忠見 忠峯
比義 夜又神 壁土
瓶原 同 泉川 たまた人 長々山
破石 泉の風 ちまた 久迹の杜
三笠 大和 山野 原杜里 峯神
春月 月雪 橋 二葉の松
義治 天のかぐ 榊葉 氏人 藤
作保川 山のサ 春の里 羽黒山
朱の玉垣 桂木松 雪消の沢
発火盤 紫香楽 かりに 柳木の杜
三松山 同 みかし野 大君 ちまた
澤の上 かぐ藤 かぐ藤

三室 同 山峯 禁 岸 神
神南俊 岩瀬の森 藤
榊とり 雪の下 弱田川 葉
錦ちらさる 味酒 神なびま
姫小松 旅人 猶ある 郭公 河内
同 山里 神 祭 市 索麺
三椿 布留 ちる瀬
ちるの秋 玄賓 淀 山田りり
山中 神垣 ちるの紅葉 大江歌
作物の浦 捨小 市人 菴 味酒
耳成山 同 ちる中 宇陀野
わざ人 ちるこの藤
御津 摂津 濱 浦 崎 湊 泊 祭
場江 難波 いさりひの月
燒塩 大伴 菰枕 うら波 ちる藤

細川（ヒキ）　芦のうら葉　海士のつり火
いなの山　長月　武庫　坂江
同　生田の小野　さゝ原の声
澪川（ミナト）　和歌浦　うきねの家　兵庫
うら風　みかの原　汐まく濱ゝ　蘭塚（ランヅカ）
合戦　棚なし舟　ふる里　明石
同　江　浦　波　わゝ夫　妻
三潟　まつ風　海士の苫屋　みゝれ芦
入潮のうしほ　巣　白菊　住吉　出柄（ナガラ）
伊豆国国府所　明石　暦　鰍（ウミヒコ）　初雪の原
大根　能因の歌　同　潟の海　まと続
あま小舟　ちゝ夫　浜ぐり　りゝ夫　海松（ミルメ）
三犬女浦（ミヌメノ）　同　海松（ミルメ）
箕面（ミノオ）　同　猫のつゝ松　海寺
矢ぐち天　ふる日の月　うゝ世貝

小嶺（ミモスソ）川　伊勢　君ゝ代　神風
白波山　三ツ角柏　ちぎのうゝぞぎ
ゝゝの松　わゝ子　友引糸
同　小椋　岸の枝村　ゆゝゝ
文河　君を祈る　駿　明星の宝蓋
同　ゝゝ　新　度会
三波　同　いせの海　わゝ山
いせのゝ海　駿河　松原　富士　戸糸
三穂浦（ホノ）　清見の実　天人　四子
手人ゝゝ　ちゝし　神師（ミナシ）の浦
藤袋焼　清見寺　聖寺　五十松
相摸　祝つゝ美　小つゝ坂
海浦（ミウラ）　荒弁　大仏　菊（ヨモスエ）　澄

平六帝紀　悪田流の上人
常陸　はくさの　為の関

みをの川　摂　小初瀬の為の歴史
近江　浦　河里　七十　卒

三津濱　老の浦　浪のうらの路
七の山形　赤実の濱松　古代
君の代

三尾　同　山中　松山　崎　嶋
海浦　高嶋　松木　衣
九月後　猛原　田上川　高木川
高橋の宮　大津の乃宮　比良

三上山　同　八乃宮代　玉猛　猛宮
野洲の川　ふもせ　百足
俵藤太　祈る白つさ

三井　同　高島　山桜　白浪　初瀬
その内のつさ　みをく伝　大津

井の濱　古代の宮川湯　國伽井
子園子　叫　不動　彩羅の形
小実越　如意越　三摩耶戒壇
頼豪　狂女　猛船

みつ菅原　同　濱　高嶋　妹
原の　村雨　わくらの尾の為　葛葉
出る狩人　聲　郭公　蓋　松出
義濃　中山　岩根の松

義濃の小山　ひとり川松　実の菊川

玉つさ　あづさ
常陸　原　かわ乗萩

文城野　みちのくのひみとりせ
妻こふ鹿　出の為　衣
如意山　鶴射　為　雄よ　鶴
わとれくくく　桜子　本代下為

丹後

浦嶋子 物語

たるれの約 [illegible]

東海道 名倉嶽 石貝 八橋

三河

二村山 矢矧の宿 [illegible]山

[illegible]山 長乃里

山陰道 上京絹 国小刀 綿

美濃

厚紙 約柿 [illegible] 根深

赤豆 美濃瓜 鮎 瀬戸ノ焼物

[illegible]鯉 木綿 不破の関屋 茂川

[illegible]丹 国懸の[illegible] 強盗 赤恢

[illegible]飯 [illegible]郡 [illegible]

[illegible]の宿

飛騨

塩硝 [illegible]面取 木地 [illegible]

久米の[illegible]山 [illegible]山 [illegible]の社

之

泊連

いりの条 板 社の花

苗代 野菜 湯豆

かさと菱 小田のあぜ 神木の垣

榊

月 地祭 [illegible]

中菜の絞 [illegible] 鼓 車 油

[illegible]

白木綿

社 神垣の梅 板の葉

[illegible] 吳竹 榊葉の葉 条

神輿

[illegible] 垣の[illegible]

榊板

[illegible]の鬢 榊人

上出吳の絲 [illegible]

[illegible]

の競るゝ矢さきの白木綿を弥かくよそるゝ天竺
そのなるを出したる壇をつくり白木綿にて白羽
の矢をこしらへて鳴るゝのならし天目鷲神
為作木綿ゝ

獅子

文殊　れ碁　田楽　庭　香炉

二匹犬　楼門　目貫　波天　能　牡丹　愛宕

仁田四郎　天狗　鈴

金峯山蔵王権現の獅子は狛犬は咲合て度ふる
とし維摩詰一丈之室能容三万二千ノ獅子座無
所妨碍とも虎見獅子必伏とも獅子と羊とた
こゝひさうとまさ見て八大元老皇帝のはなし。
琳頭王獅子ゝ

鹿

一名　もみぢ鳥　妻恋鳥

○萩　薄原　森　真葛原

田面　紅葉　深月　霧の内よし野

嵐山　小倉山　あはぢの浦　立田山

高砂　鳴尾山　筆　鞠　袴　春日

叢鴨　一ノ谷　清水　等栽　下野

孔門　淡路　芭蕉

鈴鹿川に渋みたしし二鹿あらわて清凉寺天
皇と親と渡し参らせし華佗が五禽戯の一は
鹿なり長久の我に供奉の衆まで鹿を射るハ
平舟みなみてるみん。家士近の将に野献所て鹿
と射のみ狂狗狂ひく従とりく母所良ハ戸
されハ夢に我ねのよふ鹿鳥と射らわさるあ
つくしずま従ふそはうと出れとの弦ひしえ
蘇耽獵常騎鹿遇険絶處皆起越同之着
竜也まぐ廃人執鹿とハむりしのれく

鴫

沢　夕の雨の顔　暁　霜秋

羽音　黒きとね秋　伏見の田舟

いな野　秋の夕暮　茄焼

立々の行の月あつまりる鴫の森ふこゝへる鴫田
と付られぐり小田の鴫の上毛よふかわれ来して
あるを折りてそみなくしとわりとおれ穴ぎの大さ
かるうち隅田川の都鳥のるの見

白鷺（シラサギ）　草花（クサバナ）　朔日（ツイタチ）　板鼎（ヒラ）　沢瀉（オモダカ）

辛夷の蕾　堀（ツミ）　池川

蓮　菊　柳　延喜（エンキ）の帝

後賓傳記を捨てられる白石の路しるべつまの鶴が
はしとん天照太神の白鷺と化して天川を泛
四方せのひろと川中にまよ遊ちらうまの川
とうとう立常青草人先見行傍自蓮魚来知
こ鶴の詩人鶴の白鷺の水の流のみきえる私をくと
もまこかりろにまーやまくくひるろうてこかつく
ちくきあるろ白鷺

神名（シトヘ）

田中の畔（クロ）　美垣　吳竹　山茶
茅原（ヤブ）　狗尾　ちうくうの
あるまてろうる
人とるるるの山里さひしーさよろくのそそ
にたくかやあくくのたたたくあく
たりともあり蛇ちくく垣（ウヒ）の根（ネ）の蛇の
も蛇日さーうまのとうし蛇結のまーまた
南をもしーいくるる青草のまれと刀蛇
たくく白の金蛇

虱（シラミ）　乞食　病人　瘡（カサ）　疥（ヒセン）　私の中

牛　竜（ロウ）　舎（シキ）　舊布子　糸　湯

蟻　蛇　蛇　蛇　虱　蟻　蟻

山谷演雅詩虱因湯沸尚血食〻去生の猿人
虱をかんるるものとすちくく淮南子曰湯沐具而饑
虱相吊〻紀昌ク弓を射ならふまちいさんと大き
よ人ものひくく虱のひくくと射ろうくぬさうり江
蛇の仁義まくく虱をやーまひされいなよい風な
るるーとく人蛇（ヒト）の化虱（ヒ）の窮身まく

蛇（ヒヤ）

撞鐘（ツキガネ）　蛇多（ヒヤ）　猿沢池　張良

弓の新　竹生鴻　葛藤　蜈（ムカデ）

ひともやそそきつまくくあるうくくく

清水（シミツ）

八幡宮　大原　庭の景色　愛宕山
いなみ野　和泉
木曽義仲の嫡子清水の冠者とかしら男後
白河の御所へ清水を参らせられしとかや
ゆけとえとひつてくるものあるを
とて結ぶもよ扇の風もあつまれくあつまれ
あすはしらるるもの兎角の業師の清水妙
まつく一ぬるもしし

汐（シホ）

浦風　浪の音　さくさくさる
帰雁　雁の列　りく列れる
業　海の物　舟　たつたの紅　嘉祐
さくさく芦原　月の影　さるの湯
鯨（クジラ）　蛤（ハマグリ）　鯉（コイ）　蛭（ヒル）　鮭（サケ）　昆布　山椒
灸　豚（ミカキ）　鯛　鯛　月　瓜
厭（エンボ）　馬刀（マテ）　海老　海苔

車舟　とのさまの　塩やき　塩やき　塩やき　塩やき　塩やき　塩やき
成一嶋（ナルシマ）　塩　塩　塩　塩　塩
るもしし

塩燒（シホヤキ）

るの療治　魚毒の解毒
歯茎　腫の痛　艾　食欲
海水流　伊勢の浦　海の浦　海の浦
芦の御の　海の浦　海の浦　海の浦
きさくす　海の浦　海の浦　海の浦
とも　海の浦　海の浦　海の浦
海の浦　海の浦　海の浦　海の浦
海の浦　海の浦　海の浦　海の浦

白波（シラナミ）

立田山　紅葉の　秋と　秋風
遠人　宇治川の　先陣（センジン）
こうれ　船の　法
然　白波　白波
の　白波　白波
さ　白波　白波
白波　白波　白波
白波　白波　白波

柵（シガラミ）

神の渡　川瀬　氷　紅葉　蛇
うのぎ　軍場　山川　玉川
丹生　羽　羽白　鶴
川みなもの　ながれ　くもり　こうけて　くもりなく　ながれ
ぬれ　ながれ　ながれ　の花　村　里　この　四　ながれ　ながれ
ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ　ながれ

[illegible]

[illegible]

東雲（シノメ）

張人　追分の滝　わくら鶯
五位鷺の声　わぬまれ
みくれ鶏（ドリ）　なまこ人

[illegible]

椎（シイ）

山堂　片岳　彩華　山鶯の彩湯
笑　宇治山　清せの山（チセ）　車　形坂
月　かれ　伝説　小猿　山鳩　美穂

[illegible]

檜（ヒノキ）

灌頂（クワンチヤウ）　岡伽の石　舎利（シヤリ）　骨ひろ
塔（トウ）　一夏　香炉（キロ）　白石
石灯（トウ）　奉灯（ホウトウ）　護摩壇　修験
酥酪　わくご

[illegible]

すまりとまりとまりと

菖蒲（ショウブ） 酢（カラト） 甲（カブト） 酒 入湯 草（カヤ） 帷子（カタビラ） 草（カヤ）

のがり 端午の節供 彩 簾 帳

仙人 注

菖蒲一寸九節服之可長生〻漢武帝にゝしハ
仙人〻梅子真於壬筍山採菖蒲服之昇仙
〻〻〻

出家（シツケ）

傘（カサ）　山伏　一夜　石の

鶴岩（ツルイワ）　迷ひる　主衛　滝に

六位のあけき　九頭天（クヅテン）ふるう

悉多太子　穢多の生れ　科と俗（ゾク）

やうて出家をつきおわり。山伏堂馬に乗信

なり。大伝教の面前にて出家をうけ。法華

ようきの比、大武帝ん蜂起ん。仏法ほろ

ぼし。科のがれをとりひとりて出家をする

不後なり

釈迦（シヤカ）

嶽（ガク）　石珠　毛山　麻の苑（ソノ）

我ゆんりてをうん魔ある。溪嶽　弟子　二七日　毛山

らんりきらり。吳山の天照のうまつる。後

羅門のうしのふしん。白象的祈願のあ。

迦よ道のひしん。とられをうしの絵。

さるけさ月のうら。〜すとは。釈迦。比高祖。弥勒

比頃羽うら。溪嶽の釈迦。なす小天迦。えのあうて。

一六地蔵と相ちうしうも。天迦はやり絵。

ひくうしうけ

四天（シテン）

数石　袈裟（ケサ）　毎衣（ゴロ）

甲　尚家の曼荼羅

仏四天は多門持国　仏長度目　彩光の四天は鏡宝

時貞光毛武。木者　四天は今し手の　桶占　揃根寺。

毛沢の四天は仏教絶信　同忠伝　絶四為　感政

同為次光政。和奇は　蛇河　兼好　浄弁　毛　蓮琴

は面をする。右を　両流　かれ　南方　紀家　城川　絵師

なり。毛　長迦法の　法師　雑波　よると　建立　毛

て四天王なると　毛〜て　伝法　経毛　島。　恵口山の　仏

教は四天王をすく〜れ〜

倫羅（ユラ）

鈍（ドン）　大和川　天人

扇（オウギ）　万戸

的面上人の入唐法天とうの。ひく三位毛山よ

五天竺とうつ〜の。附阿倫羅王も。ぬ〜れ〜。

袖中蔵日月掌内握乾坤。光倫羅のうら陰

のわ〜そひ。附阿倫羅。南とに目の。の倫羅

の〜ひとうや女院の。附ぬ〜。毛絵の。毛

倫羅乃のうら。わ〜。倫羅掌

内握乾坤夜叉足下踏泥竜

精進（シャウジン）　地獄　わること　月日星　刀
　　信受うけ　彼岸　うぐわん
忌日　吉凶の日利（メキ）　義経の連奇
喪（モ）の中　うぐ如来　ようき
精進を肉食とて少物の衣の色丹へまうすわり。
神社へ入ること魚肉をたべれば祇園を穢の穢
をとこと。天神は儒仏為ものの所廣なる故よ精
をなり。一家の百精をもつて人を

豫数（ジュズ）　だんご　刀　菩提　神よ　山伏
　　信服　菩提樹　菩薩（ヨウイニン）仁
　　疫病（エキビヤウ）

敵なのみこなのわさ世ん上そ刀ふのすと
なんなんなんとしあはとてあくはすくまくまと
とひものそふりつまき　なとも延信師　源せり。
敵山の大元の金珠　うとのうよ八十
徳の名のひさ多女。ちいさ沢久比を大くこ
まつ〜ぬうせりひつくうつまま大樹よまつる法
法数ひふりつよ行安の徳うまも

為悪（ジヒ）　誓ふ　年忌　彼岸　元金
　　誓の日　放生　延命のみぐ
仁和天皇　小素如来　菩薩の行
うぐ盆　佛　誓ふ
大りの為悪なる人百姓もこあり。報
とたと世い為悪うわうふわうふ。一切のる信
とて為悪のなかうん人情まわうんとこ。橋
と後一毎と作る人世本使あり
信心（シンぐ）　いとーのかーら　土大根（ジキだい）　神仏
　　浅瀬　誓の生云（ユイゴン）　師通
天狗のなせる大金ょ信仏をかこうれしれいち
まちまちりくまちりくまちりくしのぐずくて神や
ちんとこあり。神さ為のぬのとうのを信
ちうり荘厳きうしくてぬのまをなり比仏
名ぬとあるうる小流信仏なりくうん

四季（シキ）　寺　絵　和のか　象震
　　星れめくを　農人　義本
作義亭　醫療

七十二候まわりてこれ四季のはじめなり医療は四季のかわりめとなりぬべしとぞ
盛四季の治とうれしこれ敬
出つ世の養のなさけ
へいもくもりくと耶鄭の春よりくり。松四の附
なり。数ふること。柳八葉の
いらまこころそ

尺八

玄宗 徳の祖師 仙女 鍾
鳥絨 紙 面孫菁 鬱
樂器 由良のもの

竜舎 ふくしの兄弟のちくしん 花見の幕
どくしの長風よりの
編笠 ふくして法師 ふくしの人の家
ふくしてりけ門 ふくして法師なる

紙燭

詩奇 久久の宿 ひすする
徳 疱瘡とは
だくそくめて ほ見すの八法ひも 敷ぶとなる
けはぶくきと 柳木 よりの ちのもの
ものふくりけ ふくりけ 大小

紙帳

病 陰陽 ふくすす
猿 碁 孔門
坐到心清有妙香蒲團紙帳任更長 ふくる
しすくるくるひるくは風とくしるれば
家くふ宿の独法師 不化 紙屋 紙帳屋
しく老婆の如紙燭 ふくる八人の風 八くねた我
風はますすくくし

漆子

柘榴 大根 月 蔭 宏
徑石 佛壇 仏教 常
牧童の屋 書院

火くもくくすくけくくしのくくく

長何ハ東福寺の僧侶なり。和のみくらとも云ぬ。さすがに
ものくれもものびること若やうの人

扨子

泄門　かなえ賀　遊行上人
貝の名なり　貝　果蓏
宮木　み棚

うつくしき貝とされいろうつくしき男ども
くしなりの。粉粧ひくしをかしとしてすね
の十四五よりは故みるとそとてもとうやうぐり
よ年のいつぬとをくしくしなり

敵

遊行びくにか　和をあ　公家
るもり　服のうえ　弘ず

此故よりをくを御のはのようして系白ろ仏ま。
あとひとびと如多くを故をもとり今ま
もをくひと和田多ハをくれ。十有三年学樂
誦詩舞勺と小学　さり通盛卿をとりと
ゑゑつのなり

三絃

琉球　唐人　傾城　名踊
ちゃと　次第女　月物

懷州よりの名の物語り和尚よりも伝も三絃
とゆくなくさひとゆ。人形をうごかしくゆりを
たくして浄瑠璃よりこの物のせをゆくそえいと
まれ格子の内をゆ　金屏風よりいくるとゆ
ものとあげくゆ　をくをきめき行。あけ
屋の方ものもあるゆ

清木

杖　山茶花　鵜　鵜飼

勝尾の寺山　乃心者

三井寺の鐘のつくるあり清様をして出るなり。
敷山の清なりく敗軍ちくしたい清のうぎこと
うゆ。お河金仏の底開ゆ。光の清木をとりて
始られ行り。伏見の清木所いくの傾城包ん

象戯

風呂　鮭　犯ス　軍の下知
月日物　炉端　宿忠不

日を消もろハ碁よりくなくしくゆ。ちれど
象戯も回ーるわして碁合せ碁
の河ちいくゆ。ちゆ先盤上を始ゆくそ。象山
夷山のーゆ碁ゆ三面いそろへ五ーり。三番
三の二番ーゆ碁のるものなりとゆり。漢常

の附ものもまた司馬温公圖式となせりと象
戲經の序よりか

狩衣 狩猟 えぼし 烏帽子 山刀 茶壺
鞠 出仕 宿直人 うづら
奇野 伶人 雛 旅 弁 糸内
祭 借物

延喜帝は美麗なる人宮の大臣よ[illegible]
裝束をまゐらせ給ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

使者 雲 唯如 吊ひ 祝言
使者 八橋の蛇 長日祓
使者来欲収之雄恐懼從閤上自投下幾死矣
魯君用顏圖得道人也使人以幣先焉顏圖守
[illegible]

鹿 蛍 肱 矢川町 屋戸
猿 馬 藤 遠方 大弦
笹 船 谷 鶴

[illegible]

鹿肉づし つみ草 さ一色
さ一合 夜這 初ら[illegible]
[illegible]

鹿つめり 道 基 徒 ちから
槇の[illegible]

仏寺作法の儀もとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

舌

尺八　簡策　夜の犬　猫　牛

羅什　蛇ぐくの責　大蛇　船のわらとり

仏の舌　史鄰生　指三寸　舌下　舌七十城　楊子舌如雷光　釈迦達磨両口一舌　沙中弾舌授降龍　詩経云婦有長舌維厲之階　[illegible]

舌づゝみ

雀　山椒魚

乳の毒　酒わらび

下戸

母の胆　お稜　風呂

湯治　厄年　七夕象

白拍子

和の印　縛の偽書　拍子

[illegible]　紙玉　[illegible]

[illegible]

盛衰記云世[illegible]

氏楊貴妃玉昭君[illegible]

[illegible]

拍軍

竈　塚　苟菜　大芋　地蔵

万戸　[illegible]

王右軍の弟[illegible]

拍軍[illegible]

拍軍の出[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲外図鶴夜射声和軍の詩〻〻

上鶴

蜘蛛　蟷螂　綾の小紬　内裏

糸　絹　つゞら　詩歌　詩

管絃

不謂是非二三位典侍号上鶴着赤青色候御陪膳也〻〻。年寄の一門は皆上鶴の〻〻。彼と
もゝえぬ上鶴のやうれ車よめうれうるとゝ。
祝〻そもゝ上鶴の〻の〻〻の紅紫ふり変
酒宴のゝ〻〻〻

孫　蛛蛛　天狐　ある靈人　兄弟
伯奇の蔵　紀行　盆　賀祝　白陽
七夕　周公旦　錦　薔薇　医学入門
立山　曲水宴　餞別　喝食　八景
羅生門　行基

万葉に大伴の宿祢池主の著述あり。杜子美詩と誦して瘧病を治せり。宋希徳の一詩なり。高傷國悟ハ晦菴と墨無塵詩書種々れ古志之所至詩亦至馬詩之所至礼亦至々

汁

町の会會　饅頭　麺類　生木
とろろ芋　湯
不餔其糟而歠其醨　屈原と諫さる。南愛の絵ともろくけを　といひ。鋼汁春
よい化獄の呵責ス　栗の皮　擬の実　雌ま　図扇
澁
表紙　漆　初の紙　紙ま　茶　樋

俳味　脂粉
蟹　木　徐則甘而不固疾則苦而丕入　輪篇
ぐ　山椒　柿　五器ハ濁悪といふ。
中　冬瓜　澁
雲
冬瓜　蒐　月上　建
凍舟行　渋天寒
雲　面　蒐　彩　氷　山猪
洞　水鼻　小夜　浅衣
鹿射香
扇　墨　練茶
石行　耳
寧王驕貴極於奢侈毎与賓客議論発含嚼沉麝方啓口発談香氣噴於席上。山麝逃風遠谷藏一山行過四山香。茶のじゃうりうさいと云いつくわり

賜 伏屋 刀の作 小刀 巻 巻つ
鞘 家 瓜木 油士 うこ文ノ
敷帖 大系

皺 紙子 鐶 元人 浪 袴 山
鞘金 衣裳 梅丁 干瓦 右袴

四 冥途 山 田畑 鎧の系
湯 名 名所 三途 酒 奮
地祭 神 らり 地 蔵ア 行幸 行幸
矢数 辛夷 芍薬

質 宰人 俗人 特爽 人と
言ふ 年貢 傾城 ひ
言葉 爽 爽

京 身 絵 猫の頭 元義
文 紅 馬 板の門 灸 完
墓 名 車 石具 祈 旗
勘状 拝 漆 の絵 暇の状

紙布　苧の竿

[illegible]

正直

桶屋　大工　[illegible]　弥仏

頭　醒井餅　[illegible]

師走

油　味噌　餅つき　すす掃

[illegible]

十文字

[illegible]

一[illegible]

八酒は[illegible]

[illegible]

十一月

[illegible]

伊勢[illegible]　吉野の金式　[illegible]

金毘羅　吉田の礼幣

十一日の月もくれ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月十日は鬼宿にて四具足の後ろ[illegible]
なり〻連あるべきなり

十二日

[illegible]祭　天台礼拝懺
八坂　天台礼拝懺

[illegible]報恩の逮夜にて参詣とぶらひけるもとなり。
土佐日記云十二日山崎よりわたりとまり。天子の忌
日とりて月よみすべき十二日なり

十三日

日蓮の[illegible]報恩　空也忌
浄瑠璃[illegible]の祭　住吉の市

白川祭　宇佐の祭　住吉の祭
大豆[illegible]月　虚空蔵菩薩
五月十三日古人謂之竹酔日又謂之竹迷日裁竹
多盛[illegible]裁[illegible]の忌日十三日[illegible]。[illegible]の[illegible]
多田満仲の鎧[illegible]九月十三日[illegible]。庭訓往
[illegible]三月の[illegible]。建久元年十月十三日[illegible]長[illegible]
[illegible]謂[illegible]東鑑[illegible]

十四日

祇園会　年[illegible]　男[illegible]
南麻の[illegible]　[illegible]の山王祭

竹生島祭　清瀧祭　[illegible]祭　[illegible]極
三月十四日の[illegible]の忌にて弟山[illegible]
[illegible]。[illegible]二七[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]人の[illegible]
[illegible]。清樽素[illegible]宜[illegible]　賞明夜陰晴未[illegible]知
八月十四日の作[illegible]

十五日

[illegible]の星祭り　小倉祭　一宮祭
[illegible]祭　[illegible]祭　[illegible]祭
栗田口祭　小豆[illegible]　[illegible]祭
岩倉祭　志賀八幡祭　豊浦祭
平野の[illegible]　神田祭　宇佐祭
阿野八幡祭　放生会　芋名月
釈迦　[illegible]　礼者　盆
武[illegible]方は礼日なり。明皇在便殿甚思姚元崇論
時務七月十五日苦雨不止。八月十五日唐玄宗降
誕の日にて十秋の[illegible]。九月十五日
朱[illegible]。角田川の大念仏三月十五日
[illegible]赤壁賦は前は七月十六日後は八月十五日の[illegible]

十六日

永訣堂の大紅若　柳よ以の祈す
なを人の養父入　女踏所
小園子系　菅大臣系　嘉定喰
墨俵系　東福寺の開山忌　積塔
（ゴサイエ）
御祭会

建久六年三月十六月大仏供養に参詣のひしめく。
みなの爾（エビ）麓堂へ参りて持斎（ジサイ）とぞ。
月七月あ文群集とぞ。伊勢講いとうこ日つ
ものぞり。阿弘の紀行と寺くいさもひの紀と名
ひけのぞり。五作日記よ十六月風波やまひ行ものし
不ものとあ出ものとく

十七日

月光参　志陸（シド）る参　月物
あるとく　ものか　物ものの識法
清あ　ものぐ
公島物参よ七日の公くく知くくくくの知てはさ
ものの尺よ知りのふ三。十六日記ニ十七日の知ものも
ものとあくくとの不ものくくの月知くくのくく

ものくくくくく松のまのものたちものとそそてものくく
し。寄作記ものの庵丁八三月十七日ものり

十八月

購（コウ）ロ　清ものの参　作者記
呉服（クレハ）　歌者　たの記

八幡の軍よ徒伝ものの作ものし。我ものくくものくく
うんたものあくてものくくくくくの実の蒙門と阿弘
の紀行十八日のものくんぞ五作日記ものの十八日行ものみ
しものくくの海ものくくもれいの知ものくくとの泊ものとを
くくれくくもものくくれくくものくくものとくく孔子
年くくのの日ものくくのくくれものくくくくく

白土 紫草 蕊 堂の下
尾曹 城

皇のさきのみくらの座と弁とりて名付
しるいわやうさきの。殿堂門廡黝堊丹
漆拳以法故しく遠州学記なり。吳朝より
まる後和の彩白土を以てすることあり
てとこせて。おのより京紙ぶれいまひ
もちかるもくろぐ

朱 おのか 撓打要 後の柄
宮拉 堂塔 傘 京判 刀鞘
水銀と朱とくるく朱とかくるく 数板 双六賽
てなるく。鶏鶏いろ色と朱と合せて出れり。
南紙より出る土朱と云り。朱衣の遠磨とふ
ふ。おのくるく彫 ろくそくめさいそて
さ

書陽 沢 沢屏 弟架 蓋花
うけれ

だらくりりのあるとおるくてたうく
の文なくるけくかり出雲半ゆ白書陽
ぬくてるとぬ。出の時いぐりは文ぬて。
くるとぬのあを書 鶏ものりもすくあるけて
家、紙をとんく入り

仕掛 扣碁 土圭 軍 茶の湯
喧嘩 入湯 茶一茶
槌 お田の長ろ

覺のあいをき言うけの男てくひとりでとて
そき帝王もたえされく用ふそれ。ぐれくす
わくく河のりのく。細工人いのくくていなりり
く。大いぐのくくのあるぐりとまりけもらぐ
ぼんをくくるく

鴻 屏風 鞆 ろくきの邦 猿
ちやふ 鼠 鼠鬼 狐 歯 歯と喰合
脾和の青茶 若剣 盗人 不淵
若剣なるい大剛の若なれくもあるくくら
ど。沼親も強力なくく。まくくのあと。れら。
員ろくすのくいくくもわれ。山中の逆とぐれる

[illegible]

ト

ト 占 [illegible] 勝利の業 [illegible]

油 桶の傳 [illegible] 妻戸 [illegible]

二人糸 [illegible] 巻物 [illegible]

寸白 [illegible] 縄 生る [illegible]

書奏 中[illegible]の口

[illegible]

松虫の[illegible] 梶木ハ[illegible]の服[illegible]

川の[illegible]

遺陸張昔ト隣[illegible]

[illegible]

[illegible]

死

死 碁 文字 [illegible] 双六の石

つめ[illegible] [illegible] 梅ひ 陣場

大の[illegible]吹 [illegible]

[illegible]い出 落城 飢饉年 疫病

[illegible]の魚 破換[illegible]

[illegible]

尸

尸 戦場 狼 [illegible]

落城 飢饉 安達太

過秦論云追亡逐北伏尸百万[illegible]寝不戸居

不谷[illegible]伍子胥の昭王[illegible]

楚の平王の墓と場て戸と知て鞭[illegible]と三百也

八文伍奢の仇と報ぜ[illegible]

[illegible]

二年の月飢渇して[illegible]

死ぬ[illegible]

城

石瓦　延　仏　毛氈　蒲団　板　瓶　食　花の姿　草葉　花の姿　宮　花の姿　花の姿　花の姿

名所

白河（シラカワ）　山城　滝　渡野　里。　接子　百代
血の海　花の滝　山桜　紅葉
百年の花　交寄　あられ久しき
我ゆえ　紅葉　院　山中越　牛石
小栗石（コクリ）　吉田　長谷　観音　桂坂の女
嵯峨　みちのく　実　桂風
みちのくの浦

塩竈（シホカマ）　同　みちのく　六条の糸　橋
白川の実　雑（ニウキ）の滝　ひせこ
知るぎ　長谷の大仏（ヲサラ）　女郎の浦
八十潟　泉郎（アマ）の手わざ　浦の私
いせの浦　すまの浦

麻谷（レガ）　同　如云の嶽（ダケ）　弱（ニウキ）の滝
絵寛　禅友の狭合　不動
浄瑠璃　つるぎ

神泉苑（シンセンエン）　同　大内　西と東の
義人　絵ところ　放生
ちまた　紙園の山興

笙石窟（ショウイハヤ）　大和　洞　義　葛の紅葉　河内
日義　人　紅葉　義　庵
寂寞（ヒソヒソ）の苔

信太森（シノダノ）　和泉　葛（クズ）の葉　村雨
ちまた　子狐の下まま
空蟬（ウツセミ）　狐　たりの滝
楠木（クスキ）　蛍　ちりぬる山　書
滝殺の鬼と切し心

滝山（タキノ）　甲斐　さおの滝　ちまた　君の代
八重代　秋の月
駿河　河内の国　府口

志賀機山（シブハタ）　和泉　紅葉　辰の衣　越（テゴシ）
わび川　ちまた

志賀 近江 山 海 浦 濱 津 都

花園 古郷 大和田

東々浪 河内の道 長尾山 高安

比良の高嶺 大伴 高屋 山の井

沖殺 山橋 むらとの高の雪 沖の洗

汀の氷 物もろ神 鶴の乃高嶺

大津 三井寺 比叡の山 お坂 粉雪

夕浪の高 遠 紅

滋賀樂 同 松山 御山 峯 里

御山の高嶺 河の高 橋の猶

衣うち 雲取の月 燒物つば

歯朱 茅蜩

十禪師 同 鈴の山 四條の河原 神輕

高の尾の月 松 和光

條原 同 野路の里 張り人 妹堤

加賀 美盛 ごとの 波の高 波

表 岩 岩 岩 荻

下野 さしも草

標茅原 陸奥 山 原 杜 浦 波 里

すぐる 信夫の里 原 杜 浦 波 里

信夫 もじずり さしもぐさ すり衣

文城の原 高のとの 竜り 生の松原

下ろす高 高屋原 ほのの石ず

下紅葉 ふこの実 金澤の山

岩藤の花 岩ぐし 長谷 河高

白の橋 ふる高 わかのく 縄

作義 高 いそ山 雲の一ち

やく塩 松 人目 春の川

同 紅葉川 唐錦

白川の関 ふる 唐錦

白川の関 塩竈の浦

卯花 垣根 日数 山の張 霞間

みちのく 紅葉 花

下総 同 [illegible] 相模

白山 加賀 [illegible] 越後 [illegible]

[illegible] 秋の [illegible] 蛇ヶ池

比叡 硫黄 [illegible] 竜の淵 雪の下 [illegible]

山陰 [illegible] 稲

鵜磨 播ノ 江河 浦市 里 我孫

[illegible] 廿日の月 [illegible]

歩人 日数の浦 [illegible]

筑紫 山浦 [illegible] 漁火

志賀 つけの小松 和布刈の神 [illegible]

月 海士の汐火 塩竈烟 [illegible]

播津 藻塩草 [illegible] 松風

[illegible] 花 [illegible] 養 [illegible]

志摩 東海道 [illegible] 弁貝

[illegible] 冠者 浦砂 [illegible]

下総 同 [illegible] 葛西者

[illegible] 織物 [illegible] 継橋

[illegible] わしとの文

東山道 白芋 蕎切 小梅

信濃 曽原の木綿 木曽の麻衣

木曽踊 約柿 小松原 伏屋の表

材木 [illegible]の煙 [illegible]月 [illegible]

伯母ヶ平山 [illegible]開 [illegible]月の駒

下野 同 [illegible]

[illegible]の絵 [illegible] 日光山

二子山 [illegible] [illegible] [illegible]

大方紙

類聚集巻六終

无礙菴